



本誌創刊10周年によせて

取締役社長 二 宮 善 基

史上に前例のない技術革新時代において、研究開発部門のはたす役割はまことに大きく、その活躍なくして企業の明日の発展はありえません。

当社はこれにそなえて、つとにこの部門の強化拡充を会社基本方針の一つとして力を注いでまいりましたが、本来これは一日にして成果を期待し得ることではなく、着実な、たゆまざる努力を必要とすることは申すまでもありません。幸いにして、ようやく近年その実を結び、じらい、続々と数々の新規事業に成功をおさめております。塩安ソーダ併産法・塩酸法リン酸・EDB・EDC・近くはオキシ法塩ビ製法等がそれであり、いずれも当社独自の技術開発によるものであります。

本誌にはこれらの研究成果を逐次、時期をみて掲載、公表してまいりましたが、本号で満10年を迎えるにいたりました。貴重な10年の記録であります。本誌をひもといてみると一編一編いずれも研究員諸子の汗とあぶらの結晶ならざるものはありません。生みの苦しみ、陣痛の記録といえましょう。これらの中には、企業化という実を結ぶことなくして終わったものも数々ありますが、このことはけっして無駄をした、無駄骨を折ったというものではなく、輝かしい成果の裏に秘められた豊かな基盤となったと考えるべきであります。今後とも、私どもは研究開発の基盤を強くし、将来の結実のための豊沃な畠を作ってゆくことにしたいと思えます。豊かな畠の上にこそ、より輝かしい花をよりみごとな結実を期待し得るものと信じます。

ここに、研究員諸子の労をねぎらうとともに、これを機会に、今後一層の御奮闘をお願いする所でございます。

おわりに、本誌に対し今後とも大方諸賢の御指導と、御叱正をお願いするとともに、これにより本誌が斯界の発展のため幾分なりとも寄与するところがあれば、私どものよろこびこれに過ぐるものはありません。